

万葉集同好会の紹介

万葉集には全20巻に、4500首以上の歌が納められていて巻毎にテーマがあり、宮廷の歌、季節の歌、恋の歌、旅の歌、東国の東歌、防人の歌などなど、およそ、人の生活のあらゆることが、歌に詠まれているといってもよいでしょう。

鳥を歌ったものも多く、鳥が出てくる歌は600首もあることから、万葉集同好会は鳥の歌から読み始めました。去年は自分たちが住む東の国の歌「東歌」を中心に鑑賞しましたが、東歌は庶民の素直な気持ちがほとばしる、生き活きとした歌が多く、共感しました。ユネスコの記憶遺産候補の古代石碑「上野三碑」（高崎市）はこの時代のものでしょうか。

ことは、各人が好きな歌を持ち寄り、例会で披露しています。また、万葉集の鳥も並行して少しずつ勉強しています。毎年、秋に開催される「正倉院展」に展示される宝物の装飾に数多くの鳥の文様があり、鳥を通して大陸との交流が見られ、万葉集にも遠くシルクロードの影響があるのを感じます。あなたも一度万葉集を読んで見れば、必ず好きになる歌に巡り会います。万葉集同好会で楽しんでみませんか。

今回の展示は川口爽郎著「万葉集の鳥」から抜粋、略説しました。